



エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ ～中央地区編～の報告について

1 開催目的

第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の2年目となる今年度は、東京大学高齢社会総合研究機構（東大IOG）との共同研究のもと、市民・民間事業者・大学等と「秋田市エイジフレンドリー指標」を活用しながら行動計画を点検するとともに、市民と企業等が連携し、地域の実情に応じた『エイジフレンドリーシティ推進戦略』をまとめることで、恒常的に市民等がエイジフレンドリーシティの取組に関わる仕組みをつくることを目的として開催した。

2 開催日時・場所

- 第1回 平成30年12月21日（金）午後2時～
職員研修棟 2階 第1研修室
- 第2回 平成31年1月30日（水）午後2時～
本庁舎5階 第2委員会室
- 第3回 平成31年2月26日（火）午後2時～
本庁舎3階 中央市民サービスセンター洋室4



3 参加者（中央4地区／八橋・川元・泉・中通）

- ・各地区の生活支援コーディネーター 4名
- ・エイジフレンドリーパートナー 8社（11名）
- ・民生児童委員および協議体メンバー 9名
- ・NPO関係者 2名
- ・あきた年の差フレンズ部 1名
- ・秋田大学教育文化学部学生 6名

【各回の参加人数】

第1回	29名
第2回	21名
第3回	21名

4 ワークショップの進め方

八橋・川元・泉・中通の4班に分け、各生活支援コーディネーターを各班の進行役として配置。第1回は、第2次行動計画の目標1～目標8を中心に意見交換をしながら、中央地区における課題と課題を解決するためのアイデアを整理。第2回は、特に関心のある課題を明確にし、さらに具体的なアイデアを検討。第3

回は、これまでのワークショップでの話し合いを踏まえ、4つの課題を抽出し、アイデアの具体化に向けた検討を行った。

5 ワークショップの開催状況

(1) 第1回ワークショップ（平成30年12月21日開催）

ア エイジフレンドリーシティの取組の説明

イ 第2次行動計画の目標ごとに中央地区の課題やアイデアを整理

基本目標1と市民が感じている課題	
基本目標	市が目指す方向性
1 安心安全で誰もが集える屋外スペースと建物、施設の整備を進めます	・公共施設等のバリアフリーの推進 ・交通事故の少ないまち など
平成27年の意識調査結果 (主観的指標) 近所を安心して外出できると感じている高齢者の割合 19.6%	市民の主観 不安に感じている 市民が感じている課題 ・夜間の犯罪があり怖い ・除雪、排雪が困難・歩道が狭い ・災害時の助け合いが心配 ・スーパー、商店がない ・街灯が少ない・熊が出没する

第2次行動計画で設定している基本目標1～8に対する、市が目指す方向性を説明。それに対して、市民が実際に感じている主観についても併せて見ていった。

その上で、中央地区ではどのような課題があるのかを目標ごとに検証。グループ内で特に関心が高かった目標を2～3個絞り込み、その目標に対する課題やアイデアについて発表した。

※検証した課題・アイデアについて、「エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ～中央地区編～通信No.1」を参照

(2) 第2回ワークショップ（平成31年1月30日開催）

課題とアイデアの深掘り

第1回のワークショップで出された多くの課題の中から、特に関心の高いものを絞り込み、「なぜこれが地域にとって課題だと思うのか」をさらに深掘りした上で、それを解決するための具体的なアイデアを検討。住民・市・民間事業者がともに目指したい方向性についてまとめた。

※まとめた結果については「エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ～中央地区編～通信No.2」を参照



(3) 第3回ワークショップ（平成31年2月26日開催）

絞り込んだ4つの課題と具体的なアイデアの検討

特に関心が高かった課題を4つに絞り込み、4つのグループごとに具体的なアイデアの実現に向けた「エイジフレンドリーシティ推進戦略」をまとめた。

※まとめた結果については「エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ～中央地区編～通信No.3」を参照

6 今後の検証について

3回のワークショップを通じて出された中央地区における課題や、それらを解決するためのアイデア等については、今後、東大IOGによる助言を頂きながら、中央地区におけるエイジフレンドリーシティ推進戦略としてまとめ、来年度、本推進委員会へ報告する。